

あじさい看護福祉専門学校の自己点検自己評価の経過

本校では2020年の教育改革を踏まえつつ、2022（令和4）年の看護師養成施設指定規則の改正にむけて日頃の教育活動の成果と課題をもとに自己点検、自己評価を行った。

本校には、看護学科、介護福祉学科2学科があるが、介護福祉学科においては学生確保が困難な状況から2019年入学生から学生募集を停止して現在に至っている。そのため看護学科を中心にまとめた。

I 教育理念・教育目的

あじさい看護福祉専門学校の前身であるあじさい看護専門学校は、地域の基幹病院である木沢記念病院によって、質の高い看護師を養成する目的で設置された。（看護師養成所指定規則、学校教育法専修学校設置基準）平成14年、地域福祉に貢献するため介護福祉学科を開設し学校法人あじさい学園あじさい看護福祉専門学校と校名を変更した。2022年1月に社会医療法人厚生会中部国際医療センターが開院し、より一層グループの連携・協働を強化して地域医療を支える質の高い看護師を育成するため、2024（令和6）年4月より校名を「学校法人あじさい学園 中部国際医療専門学校」に変更する。

II 教育目標

「100%現場主義」を掲げて、臨地実習での看護実践を重視したカリキュラムは、プロジェクト学習とポートフォリオを使うことのみならず、「逆向き設計」論に基づく教育目標と評価の整合性と妥当性、教育方法との一貫性を目指して三位一体の教育を実現した。

2019年冬から始まった新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックにより、2020年から2023年の5類への移行までの間、臨地実習そのものが不可能となり、学内での演習に切るなか、臨床現場を模写しながらチュートリアル形式での演習、緊急事態制限解除の合間に単位時間の2/3は臨地で実習が行えるよう変更した。臨地では、臨地でしかできない看護が実践できるよう日常生活援助を重視して実習内容、方法を変更した。その結果、技術到達度はコロナ禍前よりも高くなった。

・卒業時の看護実践力の到達状況。コロナ禍前（2018年）とコロナ禍で3年間在学した学生（2022年）技術到達度の比較は以下の通りである。

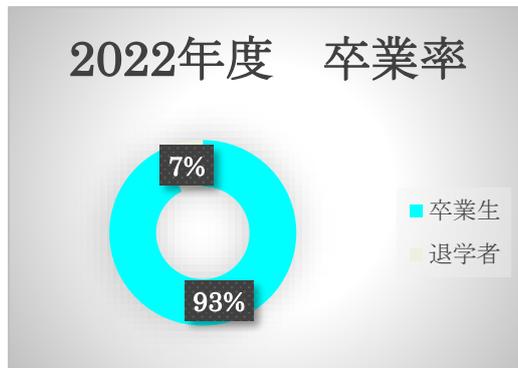
2022（令和4）年度卒業生の項目ごとの到達度は下記のとおりである。

技術項目	到達度平均 (%)	
	2018年	2022年
環境	87.5	90.0
安全管理	56.5	94.3
食事・栄養	61.2	82.8
清潔1	78.3	84.0
清潔2	65.6	
排泄	70.8	77.0
活動・休息	68.6	86.0
安楽	61.7	88.3
バイタルサイン	78.3	91.9
与薬	75.6	53.0
治療・処置・検査	37.5	37.0
治療・処置	58.4	
検査	79.2	

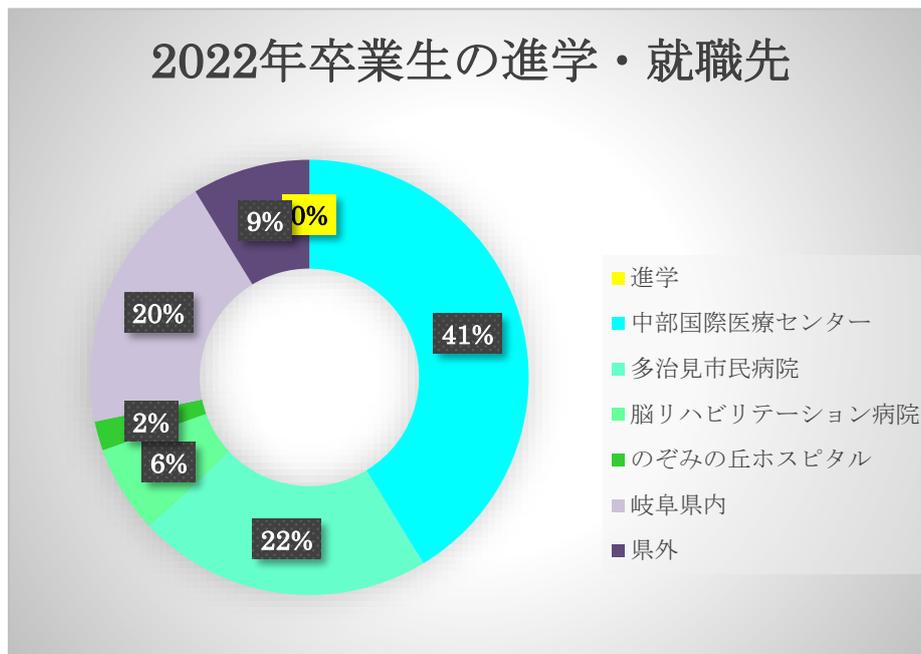
・国家試験の合格状況



・2022年度 卒業率

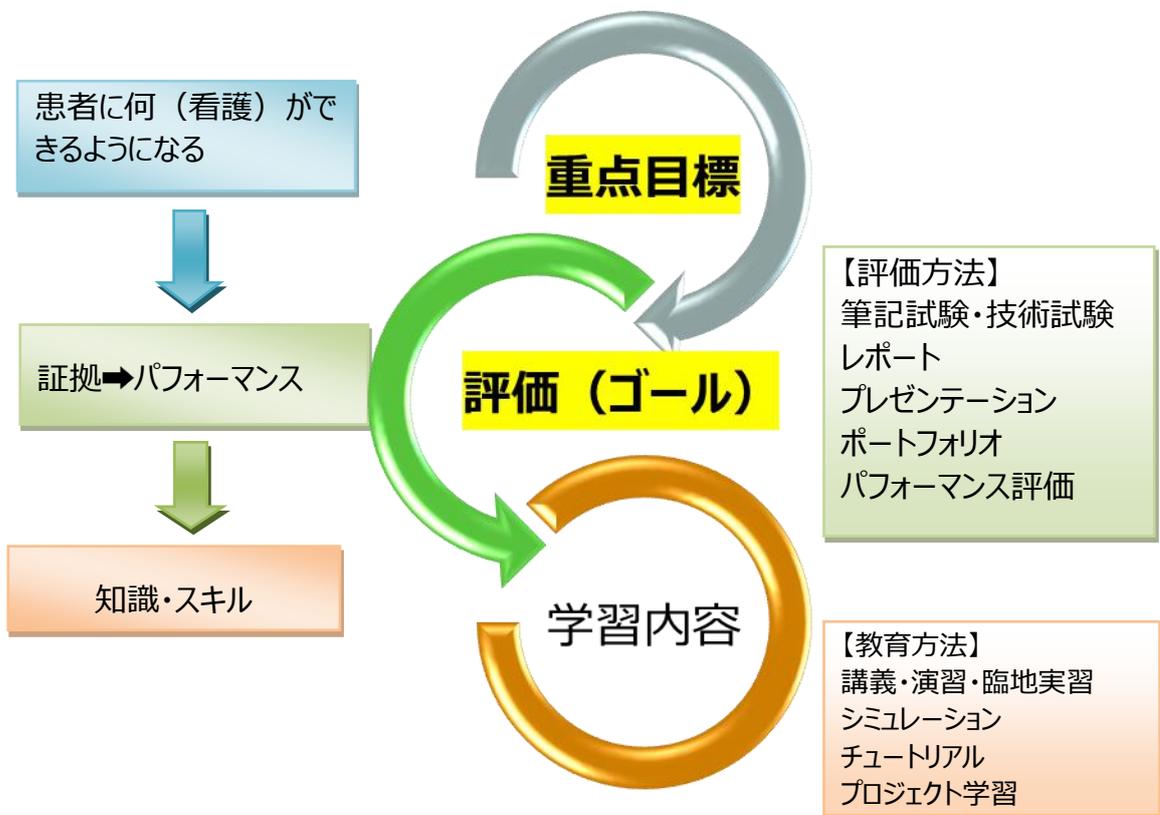


・2022年度 卒業生の進学・就職状況

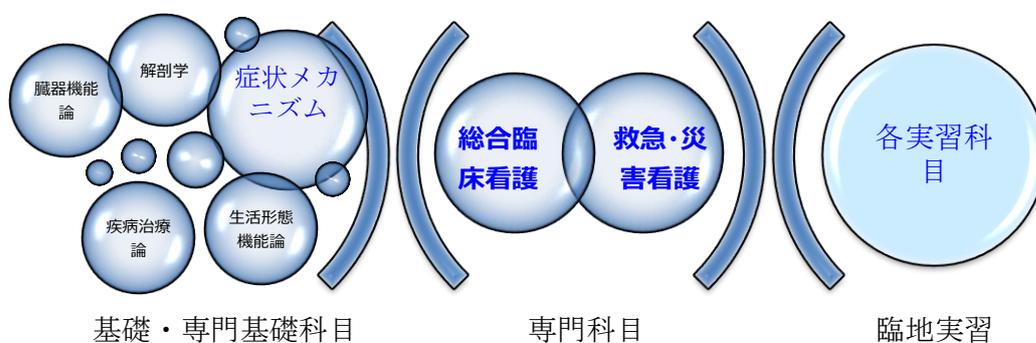


III 教育課程経営

2022年施行の新カリキュラムでは、学生のパフォーマンスに焦点を当て、「逆引き設計」論に基づいて教育目標と評価の整合性から学習方法の一貫性を高めた。また、パフォーマンスに焦点を当てて効果的な学びになるよう、教科横断的にカリキュラムを構築した。領域毎に「何ができるようになるか」臨地実習で目指す重点目標とゴールを明確にして、専門科目の講義・演習の内容を見直し、専門基礎科目、基礎科目の学習内容を再構築するとともに、教育方法、評価を見直し「知る」から「学ぶ」「理解する」ことを目指したカリキュラムに再構築した。



さらに専門基礎科目の学習内容を看護と関連させて知識の活用ができるよう、学習内容のまとめ、関連性を考慮した講義スケジュールになるよう工夫した。以下の図は「症状メカニズム」の例。



単位認定の評価は、各科目終了時におこなわれている。単位認定にかかる評価の概要と基準を授業概要に示すとともに、教育目標、評価、教育方法が三位一体にして学生の力を多面的に評価するためのパフォーマンス課題やポートフォリオ評価法を取り入れている。

単位互換については学則第 10 条（看護学科における、大学や他の学校養成所等で履修した単位の認定）に定められているとおりである。これまで本校の看護基礎教育内容と同一内容の科目を履修した者はなかった。学則は養成所の指導要領第 5 に基づいて学則が作成されており問題がないと思われる。

教育課程を評価する体系はできていない。教師が個々に自分の授業や実習指導を自己評価しながら適宜改善を繰り返すカリキュラム・マネジメントのサイクルは回っているが、非常勤講師に関する評価は実施していない。経営管理課程の評価については今後の課題である。

各専門領域を担当する教員を配置し、基礎看護技術領域は全員に配分している。学年担当教員以外はすべて臨地実習に出るため、授業準備の時間が確保できていない。現在はパートの臨床指導教員を 1 名（地域・在宅看護論実習）確保しているが、さらに「成人・老年看護実習」の急性期・慢性期の指導ができる 2 名の確保が必要である。

教員の自己研鑽については、新型コロナウイルス感染症の影響で 4 年間学会に参加していなかったが、2023 年より学会参加が可能（日本看護学教育学会 3 名参加）となり、自分の専門領域の学会に参加するよう推奨している。

IV 教授・学習・評価過程

評価は、単元のゴールの到達状況を的確に把握するため、筆記試験、実技、レポート課題、プレゼンテーション、ポートフォリオ、パフォーマンス課題など様々な評価方法を用いて行っている。シラバスには評価の方法、割合、評価基準を明示し、学生自身も自己評価ができるようにしている。また、それぞれの評価結果を学生に公表し、疑問、異議がある場合や質問にも対応するなど、公平性を保っている。

学生自身の自己評価力を高めるため、パフォーマンス課題や様々な場面で学生同士の相互評価の場面をつくり、評価力の指導も行っている。

単位は学校（教師）からもらうものではなく、自分で取得するものという意識をもたせるため、学生個々で長期的ルーブリックを用いて自己管理をしている。

V 経営・管理課程

各学科会議の意見は、事実上の運営会議である所属長会議で吸い上げられ、学校長に報告、意志決定される。経営上組織構成員の意見が反映できないときもある。

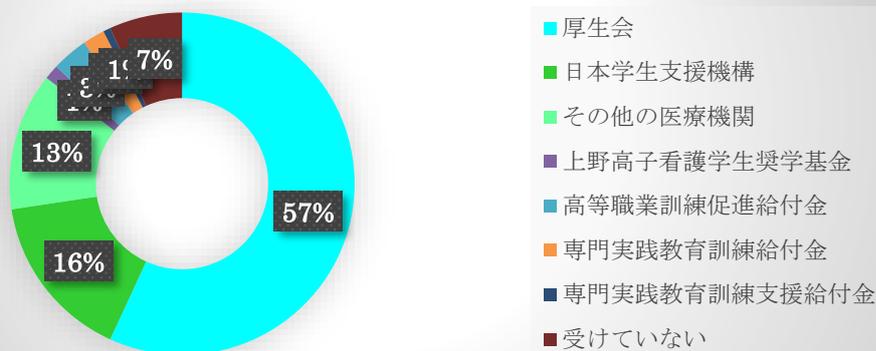
組織の構成は指定規則等をもとに構成されている。教育理念・目標の達成、学生の状況から考えると指定規則以上の人員が必要と思われる。任用についての考え方は養成所の指導要領、手引きに従っている。教員の資質向上については、大学、大学院への進学や自己研鑽について奨励し支援している。

本校の財政基盤は学生納付金と補助金である。したがって学生の確保が重要である。損益分岐点を明確にしてそれ以上の学生確保を毎年目標としている。

しかし、2020（令和4）年より18歳人口の減少、私立大学の補助金制度の変更があり受験者数が減少し定員割れが起きている。看護師になるための基礎学力、資質について現在のアドミッションポリシーを維持しつつ、地域医療を支える看護師を養成するための対策は待てない状況にある。

学生の支援体制については、日本学生支援機構・医療法人厚生会奨学金（看護）・看護職員修学資金の取扱いを行っている。看護学科においては、医療法人厚生会奨学金枠（希望者20名前後）受けることが可能である。授業料の分割納入制度、2024年度より特待生制度を設ける。

2022年度 奨学金等の支援を受けている学生の割合



健康診断は年2回（春・秋）実施し、校医が受診等必要を認めるときは紹介状を書いて受診をすすめ、結果のフォローをしている。精神的支援として学生相談室開設。臨床心理士に委託し学生の状況に応じて相談ができる態勢である。2022年度の相談者は2名だった。

社会的活動への支援

地域貢献として教職員・学生のボランティア参加を積極的に行っている。学生のボランティア活動は、コロナ禍の4年間できななかったが、2023年よりボランティア活動が再開された。

進学希望の学生に対しては入学案内を閲覧などで紹介、就職についても求人ファイルをロビーにおいて自由に閲覧できるようにしている。就職に関しては、2年次より就職のための情報提供や必要時相談に応じている。

学校が保護者に提供している情報は「成績不良者の保護者への通知」、「感染防止対策ともなう学校からの通知」等である。成績不良者や長期欠席者に対しては、文書で通知したり担当が電話で連絡を取ったりするなどしてコミュニケーションをとり協力・支援をお願いしている。

保護者には教育後援会会費納入により学生の教育・学習活動に支援いただいている。決算報告書の配布もおこなっている。

現在、当校が行っている広報活動は、オープンキャンパス、学校説明会（秋冬の1、2年生対象）、ホームページ、学校案内の送付による情報提供、学校説明会の開催、関連法人のオープンホスピタル等がある。オープンホスピタルと中部国際医療センターが主催する健康フェスティバルへの参加は地域社会へのPRになっている。

学生を確保する対策と事業計画については、理事会で承認を受けた事業計画・年間行事計画はあるが、事業計画は次年度1年間の短期事業計画であり、また年間行事計画は学校行事カレンダーの意味合いが強い。

これからの人口減少に伴う学生確保の課題については地域の医療福祉に貢献する人材育成の観点からも、法人全体の短期・中期計画の目標の一部として戦略的対策が求められている。

VI入学

学生募集要項に教育理念・教育目的・アドミッションポリシーを明示している。

看護学科では一般入試に関しては、数学・国語・英語の3教科の学科試験を行っている。学科科目についてはいずれも看護を学ぶ上で必要であり、採点等においては点数化されており妥当であると考えられる。面接試験では、読む力、書かれていることを説明する力、

自分の考えを述べる力をみる内容とともに、適性検査を面接の補足として活用している。

社会人入試は13期生から行っている。選抜方法は小論文と面接、適性検査を行っている。小論文の評価はルーブリックで行っている。

推薦入学の募集人員は入学定員に対して何人かは決まっていない。

VII 卒業・就業・進学

卒業生のほぼ90%が奨学金を受けている関連法人に就職する時代が長く続いたが、2022年より、奨学金枠が半分になり奨学金を受けていない学生の県内・県外就職域が拡大した。また、他の施設からの奨学金を受ける学生もいる。2023年の卒業生は46名中33名が関連病院（中部国際医療センター、多治見市民病院、脳リハビリテーション病院、のぞみの丘ホスピタル）に就職し、9名が岐阜県内、3名が県外（愛知県、沖縄県）に就職した。進学者はいなかった。

VIII 地域社会、国際交流

地域社会への貢献として、学生・教員がみのかもハーフマラソンAED隊として協力している。また、美濃加茂市の災害救助訓練、DMAT模擬患者として2年生が全員参加している。地域へと広がる教育の場として、ブリジストン株式会社関工場で企業演習、飛騨千光寺での瞑想体験、自衛隊春日井駐屯地での災害救助訓練の実際を行っている。

コロナ禍により、開校以来続けていた海外研修旅行、国際交流が中断されている。さらに世界情勢で学生の安全確保ができないこと、円安で費用が2倍以上になることから再開の予定もたたない状況である。国際交流、異文化間の交流と理解は文化的ケアに不可欠であることから、今後の世界の状況を見据えつつ再開の時期をまつ。

研究活動に関しては、1名が2021、22、23年に日本看護学教育学会 交流セッションを行っている。学会入会状況は、日本看護研究学会、日本看護教育学会、母性衛生学会、日本助産学会に入会している。

学校経営・運営の概念

あじさい看護福祉専門学校は、中部国際医療センター、多治見市民病院、脳リハビリテーション病院、のぞみの丘ホスピタルなどの医療グループ、福祉を担う慈恵会のネットワークのメンバーとして、地域の医療・看護・福祉を支える人材を育成する高等教育機関としての役割と責任を担っています。そのため連携・協働を発展的に推し進め、地域の人々の健康を支える専門職者を育成します。

2023

あじさいプラン2023

6

学生確保に影響を与えている背景

学生確保のギャップ

看護系学校の密集県（大学9校、養成校6校）、地理的ギャップ、県民性（公立志向）、大学進学率を実績にする高校風土

受験生の傾向

「総合型選抜（全AO）」、「学校推薦型選抜」ではほぼ年内に進学先が決まる。（全国的には50%、本校の募集にかかる学校はほぼ100%という学校もある。「一般選抜」で受験する学生は県外、まれに進学で大学に行けなかった生徒

経済的安定と就職の保証

2023年度入学生32名中厚生会の奨学金希望者が22名（68.7%）。「奨学金を切られる」「希望しても中部国際医療センターに就職できない」という情報が拡散している。

コスト

学生の定員割れにより今年度から学校経営がマイナスに転換する。2024年度以降、35名～40名を確実に確保する必要がある。

ユーザビリティ

学生と保護者、高等学校は奨学金を切られたり、就職ができなくなるという不安なく、安心して8年間の学業を修め、国家試験に100%合格し、中部国際医療センターに就職できることを望んでいる。

2023

あじさいプラン2023

4

課題

短期

定員確保
定員割れに対応した学校経営
教員の確保
2024年度スタートまでに **3名の採用**が必要。

長期

1.施設のメンテナンス
2.大学との教育連携
3.養成校の統廃合

2023
あじさいプラン2023
13

目標と目的：18歳人口の減少を乗り越える戦略を構築し、実行する！

短期的戦略

<p>1. 高校教諭・生徒・保護者の意識改革 目標：推薦入試出願者40名</p> <p>伊藤参与同道による高校訪問 高等学校に向く事業（キャリア教育、模擬授業、卒業生の派遣、授業見学） オープンキャンパス3回（7月、8月） 1, 2年生対象 学校説明会秋、翌年春2回開催 高等学校進路指導主事を対象にした説明会（12月）</p>	<p>2. オープンキャンパス参加者を増やす 目標：120人</p> <p>6月より高校訪問（学校長、事務長50校） 卒業生の母校訪問 在校生・卒業生の声、活躍を学生目線（ショートムービー）で発信 QRコードから参加エントリー</p>	<p>3. 関連法人との連携強化</p> <p>年2回の実習指導者会議の開催、相談と対話の促進 中部国際医療センター視察・体験（6月～10月毎月1回土曜日に実施） 秋、翌年春の学校説明会時に中部国際医療センター見学</p>	<p>4. 学校・関連施設のイメージアップ</p> <p>校名変更：2024（令和6）年4月より学校法人あじさい学園中部国際医療専門学校に変更 学校：ラダーに沿って自己点検・自己評価 マネジメントサイクルを回す 関連施設実習を通して「ここで働きたい」と思える実習指導体制と実習環境の整備（指導者の育成）</p>
---	--	---	---

2023
あじさいプラン2023
8